

課題

- 人口減少と少子高齢化、過疎化を根本原因とした、運転手の高齢化、利用者減少による公共交通の衰退
- それによる買い物難民や通院難民の増加
- 担い手不足による産業の衰退
- 地域社会の維持ができなくなることへの危惧

推進体制

地方公共団体
対馬市・長崎県・
長崎県警察本部

民間事業者
シダックス(株)・対馬交通(株)・
(株) BOLDLY・
(株)アイサンテクノロジー
(株)リテラ・グローバルアクシス

対馬市
未来技術
地域実装協議会

ハンズオン支援

大学
明治大学

現地支援責任者
(九州地方整備局)

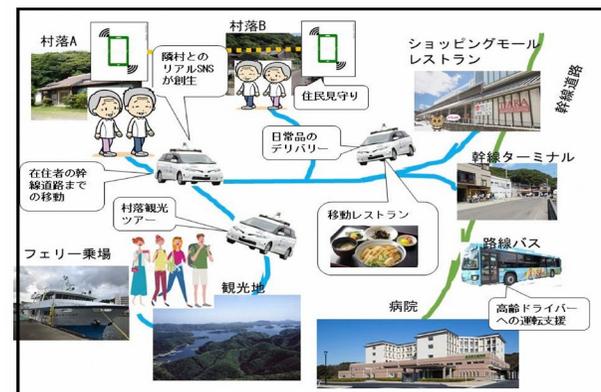
国
警察庁・国土交通省

課題解決に向けた取組

(写真・図：対馬市提供)

自動運転技術とスマートシティプラットフォームを活用した
社会課題の解決事業

- 自動運転技術とIT、AI技術を駆使したMaaS及び関連サービスの一体的な導入により、Society 5.0を具現化し、地域課題解決を行っていくスマートシティ構想を実現する
- ・自動運転技術を活用することによる交通難民、買い物難民の解消
- ・定住者、旅行者、事業者が共通で使えるスマートシティプラットフォームを構築し、だれもが容易に効率よく利用できるインターフェースの開発
- ・上記技術を地元で学び、地元でメンテナンスし、地元で人の還流を呼び起こす研究機関の設立



事業のイメージ

2021年度の
主な取組

- 自動運転車両を導入し、社会実験に向けた現地でのテスト走行を1回実施
- 新型コロナウイルス感染症の影響によりテスト走行1回と社会実験を令和4年度に繰り越した

取組内容

(写真・図：対馬市提供)

自動運転車両導入（～令和3年10月）

- 当事業で令和3年度、令和4年度の実証実験、一部実装に用いる自動運転車両を令和2年度繰り越し予算で完成させた

自動運転車両社会実験（令和3年10月～）

- 導入した車両を社会実験で走行させるためのテスト走行を実施。この後、さらにテスト走行を現地で行い、正確性や安全性を高めたうえで3月に社会実験を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響でいずれも4月以降に延期する



実証実験に用いる自動運転車両



実証実験の候補場所